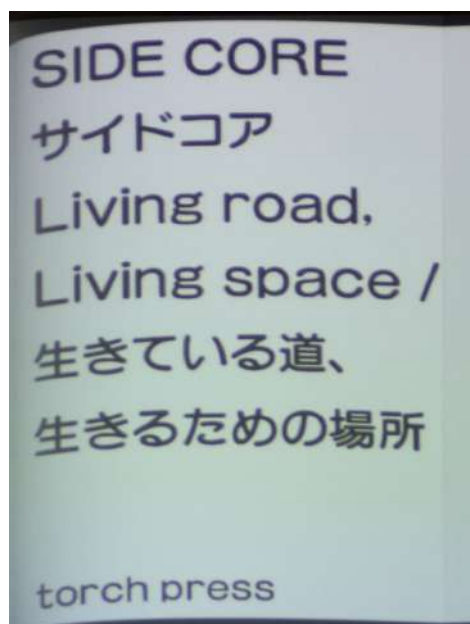


1月中旬発売予定



表紙イメージ

仕様：A5／並製（クータバインディング）
264P + 中綴じ冊子 16P

執筆：小田原のどか（美術家）、キャロル・インホワ・ルー（キュレーター）、高木遊（金沢21世紀美術館）、松下徹（SIDE CORE）

アートディレクション：加瀬 透・小池アイ子・牧 寿次郎・岡崎真理子

デザイン：田岡美紗子

言語：日本語／英語

定価：3,000円＋税

ISBN：978-4-907562-60-1 C0071

『SIDE CORE Living road, Living space / 生きている道、生きるための場所』

アートチームのSIDE COREは、これまで東京を拠点に全国各地でさまざまなプロジェクトを行ってきました。実践の背景には2011年の東日本大震災で実感した「都市はあらゆる側面で他の地域に依存して成り立っている」という気づきがあります。金沢21世紀美術館で開催中の大規模個展では、多様な場面で「生きるための場所」を発見/再発見するための契機となることを目指し、「道路」や「移動」という視点から、「異なる場所をつなぐ表現」ことをテーマとしています。

本展にあわせ、約10年ぶりとなるSIDE COREの書籍を刊行します。展覧会の記録だけでなく、代表作品・論考・SIDE COREの活動史までを収録。展覧会デザインと連動し、加瀬透・小池アイ子・牧寿次郎・岡崎真理子の4名が本書のアートディレクションを担当。これまでのSIDE COREの軌跡を横断できる一冊として、作品とその背景を充実した内容で紹介します。また能登半島を舞台にしたプロジェクトを記録した「Road to Noto」のZINEが付録として投げ込まれます。

関連展覧会

「SIDE CORE Living road, Living space / 生きている道、生きるための場所」

開催中～2026年3月15日 金沢21世紀美術館

ゲストアーティスト:森田貴宏、スティーブン・ESPO・パワーズ、細野晃太郎



SIDE CORE（サイドコア）

2012年より活動を開始。メンバーは高須咲恵、松下徹、西広太志。映像ディレクターとして播本和宜が参加。公共空間におけるルールを紐解き、思考の転換、隙間への介入、表現やアクションの拡張を目的に、ストリートカルチャーを切り口として「都市空間における表現の拡張」をテーマに屋内・野外を問わず活動。近年の展覧会に「SIDE CORE 展：コンクリート・プラネット」（2024年、ワタリウム美術館+屋外、東京）、「六本木クロッシング2022展：往来オーライ!」（2022年、森美術館、東京）、「Reborn-Art Festival」（2022年、2019年、2017年、石巻市）、「水の波紋展2021」（2021年、ワタリウム美術館、東京）などがある。

▶ご注文はツバメ出版流通まで FAX: 03-3721-1922

mail:info@tsubamebook.com

TEL:03-6715-6121 http://tsubamebook.com

貴店名(番線印) ご担当： 様	新刊 torch press	www.torchpress.net 返品条件付注文扱い 返品了解 ツバメ出版流通:川人
	注文数	『SIDE CORE Living road, Living space』 SIDE CORE ISBN978-4-907562-60-1 C0071 定価3,300円（税込）